



アメリカで医療コストを抑える秘訣

前回の記事では、アメリカでの船員医療が高コストである理由を紹介しました。今回は、その医療費を抑える為の秘訣を紹介します。

割引は大きいことに越した事は無い、と誰もが思われるでしょう。30%より50%の割引が良いに決まっています。同様の考え方がアメリカの医療でも頻繁に見られます。個人も企業も同様に、より大きな割引を提供する病院やサービスを探すのです。

船主にとって病院の請求額に対する割引が大きいほうが好ましいのは明確です。しかし我々は、まず第一に不要な医療を避けることが、アメリカで医療費を削減するにあたり特に重要であると見ています。そこで、我々は以下のとおり医療費請求と出費を抑えるための戦略をまとめた参照リストを作成しました。

医療サービスプロバイダーを特定する

船主並びに船舶管理会社が代理店に航海指示を出す際、全船員の医療をどの医療サービスプロバイダーが受け持つかを特定すべきです。そのような明確な指示を出すことが、ブローカーや、目に見えない手数料、又は不透明な動きを断ち切るのに役立ちます。



メディカルケースマネジメント

船員の医療サービスに対する指示やコントロールを、ソーシャルワーカーや医師や看護師が行うことをメディカルケースマネジメント、これを行う者をメディカルケースマネジャーと呼びます。メディカルケースマネジャーは、船主や患者の利害も同時に配慮してくれますので、結果的にコスト削減へと繋がります。よって、船員に対し良質なケアを提供しつつ医療費を抑えることが可能となります。

メディカルケースマネジャーは、地域のクリニックの医師から受けた指示をクリニック内で済ませることで、総合病院の緊急治療室（ER）での治療よりコストを低く抑えることができます。以下がその例です。

例1（メディカルケースマネジメント無し）：クリニックで診察を受けた患者が、虫垂炎のおそれがあるからと総合病院の緊急治療室（ER）へと送られます。ERでは臨床検査やCTスキャンを受けた結果、虫垂炎はないと診断されます。割引適用前の検査費の請求額は\$6,600.00となります。

例2（メディカルケースマネジメント有り）：クリニックで診察を受け、更なるケアについてメディカルケースマネジャーと相談します。ケースマネジャーは、総合病院へ行かずにクリニックにて臨床検査とCTスキャンを外来患者として受ける事が出来るよう調整してくれます。検査とスキャンの結果、虫垂炎はないと診断が出ます。クリニック、臨床検査、CTスキャンの請求額は計\$2,100となり、加えてメディカルケースマネジャーに支払われる費用は\$500です。

上の例に出てきた医療費に30%の割引が適用された場合、例1は\$4,620となります。それに対し、例2では医療費が\$1,470となり、メディカルケースマネジメント料の\$500と合わせて\$1,970となります。メディカルケースマネジャーの効果的な活用による節約は、高額なケースだと何千ドルにものぼります。

メディカルブローカーの回避

メディカルブローカーとは、医学訓練がほぼ皆無なのにも関わらず医療サービスの仲介を行う人物を指します。医療費が上がるにつれ彼らへの支払額も上がります。メディカルブローカーは医療費を抑える為の専門知識やインセンティブや動機を持たないのです。多くの場合、メディカルブローカーはキックバックを受ける代理店から指名されます。メディカルブローカーは時にコストの透明性を濁すため、疑問視されるような請求手法を使います。

医療サービスを提供する側がメディカルブローカーなのかメディカルマネジャーなのか、区別が難しいこともあります。ですので、代理店に船員の医療サービスを依頼する場合は以下の質問をする事が重要となります。1) 医療サービス提供者と同じ住所で勤務する医師はいるか？もしどの医師もサービス提供者とは異なる住所で勤務している場合、その提供者がメディカルブローカーである可能性があります。2) 医療サービス提供者に紹介する見返りとして、代理店は報酬を受けているか？もしそうであれば、医療サービス提供者がブローカーである可能性があります。3) 病院へ支払う際に使われている小切手の、支払い済みのコピーを提供してくれるか？してくれなければ、その医療サービス提供者がブローカーである可能性があります。

緊急治療室（ER）の回避

医療出費を抑える最善の方法の一つは緊急治療室（ER）を避けることです。ERはクリニックや外来サービスといったサービスの10から20倍のコストになります。例えば、よくある血液科学検査といった複雑な検査だとERでは\$900以上にもなりますが、外来患者用施設では\$65が普通です。従って、可能であればクリニックで医療を受けることが最善となります。

立替勘定の中の医療費を分別する

医療費が代理店用の立替勘定に埋もれている場合があり、そうなる船主には医療費を分別する術がありません。しかし港ごとに医療費を分別することは、不正な医療行為を警戒する上で非常に重要です。医療サービスを依頼する際に、船主がどの港に対し十分な調査と注意を割り当てるべきかを把握するのに役立つからです。

最後に

アメリカの医療は高コストで複雑です。多くの場合、代理店は医療のマネジメントをこなすだけの専門知識や時間を持ち合わせていません。いかにして医療費の割引を受けるかではなく、医療費を生じさせない事にコスト削減取組みの焦点をあてるべきです。幸いにも、医療費の高騰を防ぐ為にとれる戦略はいくつも存在します。